

短 報

兵庫県下の特定幼稚園に在籍した幼児の運動能力について —2012年度の横断的研究—

Physical Abilities of Preschool Children enrolled in Specific Kindergarten
in Hyogo Prefecture
— A cross-sectional Study in the 2012 Academic Year —

溝畑 潤¹⁾ 田路 秀樹²⁾
Jun Mizohata¹⁾ Hideki Taji²⁾

キーワード：幼児, 新型コロナウイルス感染症, 運動能力
preschool children, coronavirus disease 2019, motor ability

I 緒 言

人間は、乳幼児期から歩行や走、跳、投などの基礎的な運動動作を習得する（青柳，2006；井形ほか，1997）。その為、乳幼児期の適切な運動刺激は、健全な成長を促す上で重要であり、特に5-6歳にかけて基本的な運動動作が形成される（春日，2009）。しかし、現代社会における環境変化は子どもの3つの間（時間、空間、仲間）を奪い、幼児の身体活動量の減少（國本，2003）や体力・運動能力の低下（上出，2019）の要因となっている。

文部省（現文部科学省）は、昭和39年（1964年）から体力テストを全国で実施し、児童の体力・運動能力を評価している（文部科学省，2025）。一方、幼児の体力・運動能力は、2021年に指針が発表されるまで、全国的な調査はなされていない。ただし、一部地域や特定の幼稚園では数十年にわたり調査されていて、石川県では1975年から、神奈川県では2008年から運動能力テストを実施している（宮口・出村，2016；神奈川県立体育センター，2025）。石川県での30年間の横断調査では25メートル走

（走）、立ち幅跳び（跳）およびボール投げ（投）の基礎的な運動動作が低下していたと報告されている（宮口・出村，2016）。また、上出（2019）によると、特定の幼稚園における40年間の横断調査においても、25メートル走および立ち幅跳びが一貫して低下していたことが報告されている。

このように、幼児の運動能力に関する調査は、極限られた地域でしか実施されておらず、兵庫県におけるデータはこれまで見当たらない。その中で我々は、2012年に兵庫県下の幼稚園において身体特性（身長および体重）と運動能力テストを実施し、園児の測定結果を得ることができた。一方、2012年から現在までの間には、世界中を震撼させた新型コロナウイルス感染症が日本国内でも蔓延し、幼児の生活習慣にも大きな影響を及ぼした。2012年度の測定結果は、コロナ禍以前の幼児の身体特性および運動能力の特徴を把握する上でも貴重な基礎資料となるのではないかと考えられる。そこで本研究は、2012年度時点の幼児の身体特性および運動能力の実態を整理し、将来的な時系列比較（特に

1) 関西学院大学

2) 兵庫県立大学

Kwansei Gakuin University

University of Hyogo